

残りの者 シャール

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャール」 (121号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL / 0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp

振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一

●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子

信仰: 喜びをもたらす選択の順番

● 新しい教会年度の最初の日が「イースター(復活祭)」であることに何か特別の喜びを感じます。大雪と寒さから解放されて、今年も桜を愛でることが出来ると思うと本当に嬉しく思います。

● 石巻から気仙沼までの太平洋沿岸で支援活動を続けてきた教会・宣教団体が協力して、第4回「宮城三陸2011東日本大震災追悼記念会」を南三陸ホテル観洋で3/11(土)に開催できました。皆さんの祈りと支援に心からの感謝を申し上げます。

● 今回の追悼記念会には、小坂 忠、森 祐理、上原令子、Migiwaさんの豪華アーチストが一度に協力して下さるという大きな恵みと祝福に与りました。

● 翌3/11(日) 午後には、そのアーチストが気仙沼・米山町・石巻に別れて、その地区の「追悼記念会」に協力下さり、7年を経ても重荷を負う被災者に大きな癒やしと希望を与えて下さいました。

● 石巻にはもう一つの喜びがあります。しばらく無牧であった日本基督教団石巻栄光教会の牧師として今月より震災時に東北ヘルプの責任を持たれてきた川上直哉師が就任されます。

● 早速、先生から念願だった地区のリーダーと信徒が一つとなって学ぼうと提案があり、4/25に第1回として東北学院大の佐々木勝彦氏の研究ノートをテキストに「ゆるすとは何か」を学ぶことになりました。

● そのテキストには、この問題に関しての様々な課題に関する参考テキストが載せられています。その中には「人はなぜ『憎む』のか」(Rush W. Dozier Jr.)の他、自分の子供を銃殺されたにもかかわらず、その加害者宅を訪ね、いのちは神のものとして「赦し」を申し出るアーミッシュ社会の規範と頑なに16世紀の生活様式を守り続ける実情に関する本が多く紹介されています。

● アーミッシュに関しては、以前教冊目を通したことがありますが、今回その歴史、その実際の生活様式、その生活を支えている信仰の基盤、周りの現代地域社会との関係、子ども達の教育環境とそれを支える考え、子ども達への信仰の継承と信仰の自由など様々な視点から学ぶことが出来ました。

● 物質文明が進んできた中で、私たちが目の前の豊かさだけを追い求めて忘れてきた「人間にとって、本当の幸せとは何か」を改めて問われた思いです。

● 「喜び JOY (Jesus first, Others next, Yourself last)」の聖書の教えがコミュニティー全体の当たり前の行動基準であり、その社会の単位としての家庭において働くこと、赦しが当然のことと実践されている生き方が、信仰の継承に繋がり、確固たる信仰者としてのステータスになっています。

● ともしれば、現代の競争社会の価値観に慣されてきて、いつの間にかこの世での栄誉、勝利を得ることが神の祝福と思いをしているのか、静かに神の前で静まり、再考する必要があります。

● 滅び行くものから目をそらし、決して滅びない神のことばにしっかりと聞きながら、この月も歩みたいと思います。

先月の多くの恵みから

① 3/10のホテル観洋での「宮城三陸3.11東日本追悼記念会」メイン集会と3/11の気仙沼・米山・石巻の3箇所での記念会が、小坂忠/森祐理/上原令子/Migiwaの豪華アーチストの協力と皆さまの祈りと支援によって祝福の内に終わることが出来ました。

② 神経膠腫という難病で意識不明が続いており、祈っていたいただきました大平あつ子姉は3/15に天に召されました。残



喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。ローマ12/15

された御主人と遺族のために続けてお祈り下さい。

③ 3/11の礼拝は、HHPの竹下力師のメッセージと奥様のShizu Takeshitaの特別賛美のご奉仕をいただき、大きな霊的な励ましをいただくことが出来ました。

④ 3/11の礼拝には酒田の友人伊賀兄の次男真嗣兄が横浜から参加され、午後のThe Rockでの追悼記念会も出席し、帰りに日和山より被災状況をお話しできました。

⑤ 2月もこの小さな群を覚えて祈り支えて下さっている教会・クリスチャンから支援活動のための尊い献金を捧げて頂き心から感謝しました。

⑥ 3/22に、ICC(石巻クリスチャン・センター) おいて3月のICM(石巻クリスチャン・ネットワーク) が持たれ、東松島から女川までの教会や宣教団体のリーダーが集い、一緒にみことばの説き証しを聞き、地域の教会の働きと住民の救いのために祈り合いました。

⑦ 4月より毎月1回、6ヶ月間、地本紙「石巻日々新聞」のコラム「潮音」に日常の証しを書かせていただくことになりました。昨年10-11月の「石巻がほく」紙に続いての依頼です。よき証しが出来るようにお祈り下さい。

⑧ 4/29に2018年の年次総会開催します。10年間の神の支えをしっかりと確認し、信仰を持って11年目を踏みだせるように。

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

① 求道中のガンと闘っている今野かつ子さん、千葉信一兄の奥様の手術後の回復のために。② 地域より求道者が起こされるように。

③ 渡米中のDean師ご夫妻の働きのために。④ 11年目の教会の働きと会員一人一人の忠実な証しとなる歩みができるように。

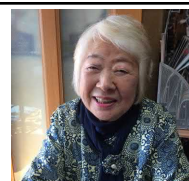
群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

4月 ガレキに埋もれし娘へ

横たわるまっ黒黒の貴女から
笑顔が似合うと届けられし声
いま生命 消えゆく貴女の胸の内
さぐるまいとぞ笑顔が消える
息してる貴女に触れたい逢える日の
いつぞやと願うお恵み待ちし



阿部 八重子

7年目を迎える震災、アツという間の月日の流れです。でも過ぎるのは月日だけ。事実はそのまま3・11。でもその事実を自分のことのように受け止めて支援下さる方々、ただただ感謝です。ありがとうございます。



宮城三陸3.11東日本大震災追悼記念会 3/10「南三陸町 ホテル観洋」でのメイン集会 Migiwa・上原令子・小坂 忠・森 祐理さんの豪華アーティストの協力で祝された記念会となった



2:46にアーティストたちに代表して献花をしてもらい黙祷 引き続いてアーティストたちが被災者に励ましのこぼとけと共に持ち歌を 今回の記念会の協力スタッフ



3/11は、礼拝後に石巻ではThe Rockで集会 祈りの家では朝の礼拝はHHPの竹下 力師とShizuさんが奉仕 礼拝後掲げ立ての餅で感謝 3/18 大平あつ子姉の葬儀で

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

Impressed Person 4 Dean Bengtson(1)

神の遣わされた「しもべ」

石巻「祈りの家」代表/阿部 一

私の60年近い信仰生活の中で、その歩みに大きな影響を与えてきた先達をこのシリーズで紹介してきた、いつかディーン先生のことを書きたいと思ってきたが、彼は「impressed」では表し切れない人だと躊躇してきた。

私は、彼を他の人に紹介するとき「Limitless & Endlessの愛の人」と述べてきた。私は彼を、高齢になって信徒だけの群の責任者になった私への神からの大きなプレゼントだと思っている。今彼との出会いを思い巡らすとき、信仰を持った遙か60年前の大学時代に遡り、そこから神の先見のご計画があったことに驚くのである。

大学を卒業し酒田の高校に奉職するときに、その下宿を探してくれたのが、酒田出身のKGGの仲間の藤井兄で、私の所属グループの教会がその地になかったので「ルーテル同胞教団酒田教会」を紹介され酒田在住の9年間お世話になった。また、学生時代お世話になった教会事務をさせていた阿部和馬兄の奥様イサ姉はその教団の出身で、御主人が召されてから仙台にあるルーテル同胞教団の神学校で働かれていることを知ったのは、私が宮城県に転勤して東北大の化学の教授から拾われて毎月仙台に通うようになってからであった。

毎月1回土曜日の午後に、夕方の勉強会の前に石巻の魚や野菜を積んで彼女を訪ねるうちに、当時神学校校長をされていた佐々木 久師ご夫妻とも親しくお交わりをさせて頂いた。

2008年にこの「祈りの家」がスタートすると直ぐに、酒田の兄弟が「チーム酒田」を立ち上げ、祈りのサポートを開始してくれた。驚くことに、その直後に上記の佐々木神学校長より「今度石巻の病院で働くことになった姉妹がいるのであなたの所で信仰を育てて欲しい。」という要請があった。「牧師もいないので」とお断りしたが、「是非」ということで一緒に信仰生活を歩む中で学んでもらうことにした。その姉妹は真っ直ぐに信仰を培い、3年後に県職員となって仙台に移るまで、ボーイフレンドを信仰に導き、結婚してクリスチャンホームを築いた。



そして、2011年の大震災の直前に仙台に移ったその姉妹が、私たち家族が、避難していた従兄弟の家から戻った翌日。地震で乱雑に散らかっている部屋を片づけている朝に、積めるだけ支援物資を積んだワゴン車から彼女と共に下りてきて、「一緒に支援活動をやりましょう」と申し出てくれたのがディーン師であった。彼女が、「石巻で支援活動をしたい」というディーン師の話を聞いて、「是非、阿部さんのところでやって！」と勧めてくれたのである。

その時から、ディーン師は連日仙台から、朝早くに支援団体の倉庫から必要と思われる物資を入手し、地震で壊れた悪路を何時間もかけて運んでくれた。そして、支援物資をもらいに来る被災者一人一人に優しく語りかけ、必要なものを聞き、励まし続けられた。教会の在る地区は北上川が蛇行した団地で、直接の津波の襲撃を受けなかったが、団地内には店はなく、1mを越す浸水で生活物資だけでなく、自家用車等が塩水で腐食して移動手段を失っていた。約1ヶ月間の支援で地区住民の生活が落ち着いてきたのを見て、先生はより助けが必要な場所を探し、渡波と同等の津波の直接被害を受け、わずかの支援団体しか入っていなかった石巻工業港に隣接する新館・浦屋敷での支援活動を開始した。

先生は、その地区の車や壊れた家屋、ヘドロにまみれた生活物資などが山積みしていた道路と側溝を、先生を信頼して集まった国内外のボランティアと共に徹底的にきれいにした。先生と私の価値観は一致していて、何をどのようにするかは、現在もこの支援活動の間もほとんど互いに相談しなくてもよかった。

そして、津波の襲撃でまさに幽霊屋敷の如くに破壊された1軒の家屋の内外の清掃に着手した。私たちの活動をPRせず、その家主の要望を良く聞き、その家を神の家と考えて要望された以上に徹底的に清掃し、リフォームまで手助けした。それを見ていた被災住民は、他の団体とは違うその丁寧な作業結果を見て、「私の家もお願いしたい」と次々と要請された。その信頼は、新館地区から浦屋敷へと拡大していった。先生は大工さんの息子なので、日本の家屋の構造も良く理解していて、ヘドロ上げや家屋内外の清掃だけでなく、リフォームのことも考えて取り組まれた。その忙しい中で、被災者の状況と要望を良く聞き、その悲しみの心を励ますために食事会や様々なコンサートやイベントを企画された。その絶大なる住民の信頼に応えるために、先生はリンダさんとともに浦屋敷に住居を借り、さらにコミュニティー・ハウス「石巻希望の家」を立ち上げた。(さらに別号につづく)